様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24　年　5　月　14　日現在

機関番号：15401
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2009～　2011
課題番号：21700604
研究課題名（和文）　体育教師の力量形成を保障するアセスメント・モデル開発のための実証的研究
研究課題名（英文）　An Empirical Study to Establish an Assessment Model Assuring the Development of Teaching Competence for Physical Education Teachers
研究代表者
岩田 昌太郎　（IWATA SHOTARO）
広島大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：50433090

研究成果の概要（和文）：
研究の成果は，以下の２点である。第１に，シンガポール及びアメリカの現地調査において体育教員養成カリキュラムとアセスメント・モデルに関する貴重な資料を得た。第２に，広島大学における「実践的指導力」の能力規準を参考に，体育教師の力量形成に寄与する知識や能力，そして態度（価値観）における内実の一端をアセスメント・モデルにて検証した。そして，その成果を国内外で公表した。
研究成果の概要（英文）：
Two results were obtained through this study; First, we have got valuable materials about curriculum for Physical Education teacher education and its assessment model through field study in Singapore and America; Second, a part of the present situation in Japan was examined in terms of the knowledge, skills, and attitudes (sense of values) which can contribute to the development of teaching competence for Physical Education teachers, based on the performance criterion of practical teaching competence in Hiroshima University.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：体育教師教育
科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学，身体教育学
キーワード：体育教師教育，ティーチング・ポートフォリオ，アセスメント・モデル，教師の力量形成，質保証

１．研究開始当初の背景

これまで本申請者は，体育教師の「実践的指導力」の育成に寄与するアセスメント・モデルとして，「ティーチング・ポートフォリオ（以下，TP と略記）」の有効性並びにその TP を電子化した「e ポートフォリオ」の一端を開発した（若手研究（B）19700490，H19-20）。さらに，教員養成段階で学生が身につけるべき「実践的指導力」を提案し，それを養成する体育教師教育プログラムを開発した（基盤研究（B）18300204，研究代表者：木原成一郎，研究分担者，H18-20）。

しかしながら，上記の研究では，教員養成の学生が身につけるべき知識や能力を提案

し，それをアセスメントするモデルを開発するのが主であり，その成果をカリキュラムという側面で実証かつ検証する段階には至っていない。

一方，わが国の中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」(H18.7) の中で，「教職課程の質的水準の向上」，「教職実践演習の新設・必修化」，「教職大学院の創設」等の方策が提言された。教員養成段階においては，「教育実習の改善・充実」や「教職実践演習（仮称)」(平成 25 年度から実施予定）の具体的な方策が中心的課題になっており，授業実践の力量形成と省察，そしてそれに必要な能力ベースの到達度の設定が焦眉の課題となっている。

しかしながら，教員養成における学部生の能力の到達度（ルーブリック），あるいはそれをアセスメントするモデルの開発や検証は管見の限りで少ない。さらには，大学院まで加味した 6 カ年の教員養成カリキュラムやその成果を検討するような研究や報告は皆無に等しい。

ところで，近年の諸外国における体育教師教育カリキュラム研究は既に実証・検証段階に入っている。とりわけ欧米では，教員養成段階と現職教育段階で要求される教師の 3 つの能力規準（「知識（knowledge)」「指導能力（performance)」「態度・意欲(disposition)」）が開発され，カリキュラムレベル・授業レベルで個々の能力を学生に習得させるための様々な試みと検証結果が報告されている 4)。又，アジアのシンガポールにおいても，教師の 3 つの能力規準（「知識（knowledge)」「技能(skills)」「価値観(values)」）が開発され，その成果が実証されつつある。一方，日本体育科教育学会や日本スポーツ教育学会などで体育教師教育に関するシンポジウムが開催され，実践的な力量を形成する授業プランや教師力などが発表され関心は高まっている。しかしながら，体育教師として求められる力量（教職スタンダード）やカリキュラムレベルでの検討，さらにはその成果を検証するアセスメント・モデルを検討するまでには至っていない。

そのような諸問題を解決する糸口として，米国で採用されている TP を参考にした前回の科研（若手 B）のアセスメント・モデルが多いに活用できる。しかも，そのような TP を活用することで，体育教師としての力量形成のコアとなる「省察（reflection)」の能力を育成することが可能となると思われる。

２．研究の目的

本研究では，次の研究課題を設定して研究を進める。

第 1 の研究課題は，国内外の先駆的な教員養成カリキュラムとそのアセスメント・モデルについて調査することである。(研究課題①)

第 2 の研究課題は，前回の科研（基盤 B）にて開発した「実践的指導力」の能力規準を踏襲し，体育教師の力量形成に寄与する知識や能力，そして態度（価値観）の具体的なルーブリックを開発する。(研究課題②)

第 3 の研究課題は，教員養成における体育科目と教育実習，そして学部と大学院のカリキュラムの連結を視座において，開発した体育教師の力量規準を各段階で実証し，アセスメント・モデルで検証する。(研究課題③)

３．研究の方法

Ⅰ．研究計画・方法（平成 21 年度）

平成 21 年度は研究目的欄に記載された研究課題①に関して，国内外の大学で調査研究した。

1）国外の調査研究Ⅰ（シンガポール）

TISS 型の学力テストにおいて，シンガポールは高得点を取得している。また，体育においても NAPFA という体力テストを適応して，生徒たちの体育的学力や健康を保持増進している。しかも，小国であるシンガポールは，唯一の国立教育学院（NIE）において，大学学位レベルで教員養成を実施している。そこで発行する学位がそのまま教員資格として適用されている。したがって，教師の質を保障している NIE を調査する必要がある。

2）国内の調査研究Ⅰ（教育実習の改善・充実）

わが国の教員養成，とりわけ教育実習の改善・充実について先駆的な取り組みをしている大学を調査する。昨年度の教員養成改革モデル事業に採択された大学を中心的に調査する。

国内の大学における教育実習で「e ポートフォリオ」を先進的に実施している静岡大学，福井大学，滋賀大学を中心に訪問調査し，資料収集を行う。とりわけ，その採用経緯と実施状況の詳細，そしてアセスメントの内容や方法について，その関係者に対してインタビューを実施する。

以上，1）と 2）の調査方法としては，岩田ら（2009）で明らかにした教育実習の評価規準を参考に，西篠（2007）で述べられている「半構造化面接法」を用いて，インタビューを実施する。また調査の視点としては，大学での教育実習の改善内容とその方法，そしてインタビュー項目としては，①教育実習システムの改善のメリット・デメリット，②教育実習生とシステムを提供している大学との認識のズレ，などを考えている。

＜引用文献＞西篠剛央（2007）質的研究とは何か．新曜社.

Ⅱ．研究計画・方法（平成 22 年度）

平成 22 年度は研究目的欄に記載された研究課題①と②に関して，調査研究した。

1）国外の調査研究Ⅱ（アメリカ）

先述した通り，米国では「e ポートフォリオ」は主流となっている。そこで，米国の中でもトップレベルの教育水準を維持している代表的な大学がある州を調査する。全米の教員養成ランキング 1 位に輝いたミシガン州立大学を拠点に調査する（America's Best Graduate School（2007）を参考にした)。調査内容や方法については，前年度の内容や方法を踏襲する。

2）国内の調査研究Ⅱ（教職大学院）

わが国の教職大学院の先進的な取り組みをしている大学を調査する。

国内において，先進的に教職大学院を新設かつ実施している奈良教育大学，東京学芸大学，玉川大学を中心に訪問調査し，資料収集を行う。とりわけ，カリキュラムやアセスメントの内容や方法，あるいはその採用経緯と実施状況の詳細については，その関係者に対してインタビューを実施する。調査内容や方法については，前年度の内容や方法を踏襲する。

3）体育教師の力量形成に寄与する能力規準の策定（研究課題②）

科学研究費補助金平成 18・19・20 年度基盤研究（B）研究課題番号 18300204「実践的指導力」を育成する体育教師教育プログラム開発のための実証的研究（研究代表者：木原成一郎）（本申請者は研究分担者）を基礎にして，体育教師の力量形成に寄与する知識や能力，そして態度（価値観）の具体的なルーブリックを開発する。具体的なルーブリックの作成方法は，西岡（2003）を参考にして策定する。また，ルーブリックの作成の際には，教員養成に長く従事する大学教員や現職教員，さらに大学院生も含めて数名で刷り合わせていく。

2 カ年の資料整理としては，収集された膨大な資料を整理するために，大学院生等の協力を得て，開発に際しての必要な内容や重点項目を KJ 法（川喜田，1967）にて分類し把握する。

＜代表的な引用文献＞西岡加名恵（2003）ポートフォリオ評価法．図書文化.

Ⅲ．研究計画・方法（平成 23 年度）

最終年度では，引き続き研究課題③を遂行するために，2 カ年で得られた知見をもとに検証した。そして，その開発した力量規準とアセスメント・モデルを試行的に本学の学生に実践させ評価する。具体的な計画・方法は以下の通りである。

1）開発した力量規準とアセスメント・モデルの検証

2 カ年の調査から知悉した知見をベースに，教員養成における体育科目と教育実習，そして学部と大学院のカリキュラムの連結を視座において，策定した力量規準を実際に各段階で実証し，開発したアセスメント・モデルで検証する。具体的には，以下の方途で検証する。

まず TP の具体的な内容は, 2 ヵ年の知見に加え，前科研で調査したウィスコンシン大学マジソン校の e ポートフォリオの概要も参考にする。例えば，①教育哲学，②作成した指導案，③授業反省のリフレクション・シート（岩田，2007, 2008 で開発)，④相互評価のリフレクション・シート，⑤力量規準（前年度開発したもの）への到達を証明するエビデンス，⑥教育実習事前後の資料等である。

次に TP に記載された記述内容を分析するために，「テキストマイニング」という新しい分析方法を適応する。ただし，テキストマイニングのソフトが高額であるため，申請時の採択金額によっては, KJ 法を用いて明らかにするつもりである。また，インタビューした内容は，音声認識ソフト等を用いて文字化した資料を用いるとともに，解釈の信頼性を高めるために教員養成に長く従事する大学教員や現職教員，さらに大学院生も含めて解釈のメンバーチェックを行う。

2）力量規準とアセスメント・モデルの開発の統括

教員養成における各段階における調査・検証結果をもとに，体育教師の力量形成の構成要素を再検討し，それをアセスメントする手段としての TP 等の妥当性や有効性について提唱する。

４．研究成果

（1）研究課題①について

まず国内における先駆的な教員養成カリキュラムとそのアセスメント・モデルについて，資料を収集した。なお，その調査結果の一部は,「体育科教育学の現在」(図書)へ成果として執筆している。

次に，国外における先駆的な教員養成カリキュラムとそのアセスメント・モデルについて，ミシガン州立大学を中心に調査し，関係者にインタビューを実施したり，資料を収集した。なお，その調査結果の一部は，「五年制教員養成のシステム構築」という題目で，報告書として公表した。

（2）研究課題②について

第 2 の研究課題は，前回の科研（基盤 B）にて開発した「実践的指導力」の能力規準を踏襲し，体育教師の力量形成に寄与する知識や能力，そして態度（価値観）の具体的なルーブリックを開発することであった。

なお，その調査結果の一部は，広島大学に

おける教職スタンダードの一端である「到達目標型教育」における到達度設定方法の開発として公表した。

（3）研究課題③について

第3の研究課題は，教員養成における体育科目と教育実習，そして学部と大学院のカリキュラムの連結を視座において，開発した体育教師の力量規準を各段階で実証し，アセスメント・モデルで検証することであった。

この点については，「教員養成課程の体育科目における到達目標へのリフレクションに関する研究－ポートフォリオの活用を通して－」や「教員養成における体育科目と教育実習の接続を目指したティーチング・ポートフォリオの活用の試み－リフレクションを中心として－」という題目で成果を学会発表した。

しかし，その成果のさらなる蓄積が必要不可欠であるため，今後も継続して研究を進めていきたい。

（4）今後の課題と展望

本研究は，体育教師の力量形成を保障するアセスメント・モデル開発のために，3 つの研究課題を実証的に検討した。しかしながら，体育教師として求められる力量（教職スタンダード）やカリキュラムでの検討，さらにはその成果を学部と大学院の一貫を意図した実践かつ検証するまでには至っていない。

そのため，今後は，学部における質保証の 1 つとして導入されている「教職実践演習」での検討や教職大学院における検証を通して，学部と大学院の一貫を意図したアセスメント・モデルの開発を実施していきたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）

1）林楠・木原成一郎・岩田昌太郎(2012)中国の体育教員養成カリキュラムにおける教育実習に関する事例研究. 体育科教育学研究, 査読（有），28:1-10

2）岩田昌太郎・加登本仁・松田泰定ほか 8 名（2012）保健体育教師の悩み事に関する調査研究, 学校教育実践学研究, 査読（無），18：151-158

3）松浦伸和・岩田昌太郎・吉田裕久・棚橋健治ほか 2 名（2011）五年制教員養成のシステム構築, 広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書,査読（無），9：89-103

4）村井潤・木原成一郎・松田泰定・岩田昌太郎ほか 7 名（2011）小学校教師が現職研修に求める機能に関する事例研究，広島大学大学院教育学研究科紀要第一部（学習開発関連領域），査読（無），60：73-80

5）加登本仁・松田泰定・木原成一郎・岩田昌太郎ほか 4 名（2011）体育授業の悩み事に関する調査研究（その 2）－教職経験に伴う悩み事の差異を中心として－， 学校教育実践学研究, 査読（無），17：169-174

6）岩田昌太郎・久保研二・嘉数健悟ほか 2 名（2010）教員養成における体育科目の模擬授業の方法論に関する検討—「リフレクション」を促すシートの開発—，広島大学大学院教育学研究科紀要第Ⅱ部（文化教育開発関連領域），査読（無），59：329-336

7）嘉数健悟・岩田昌太郎（2010）シンガポールの教員養成と現職研修のプログラムについてーNIE での調査を手がかりにー，教育学研究ジャーナル，査読（有），7：1-10

8）嘉数健悟・岩田昌太郎（2010）中学校保健学習におけるポートフォリオ評価に関する事例的研究，日本教科教育学会誌，査読（有），33：1-10

9）加登本仁・松田泰定・木原成一郎・岩田昌太郎ほか 4 名（2010）体育授業の悩み事に関する調査研究（その１）－教職経験に伴う悩み事の差異を中心として－，学校教育実践学研究，査読（無），16：85-93

10）岩田昌太郎・松浦伸和・角屋重樹・吉田裕久（2010）フィンランドの教員養成における質保証の実態—ユバスキュラ大学の事例—. 学校教育実践学研究，査読（無），16：117-126

11）松浦伸和・若元澄男・ほか 6 名（岩田は 8 番目）（2010）「到達目標型教育」を実現するポートフォリオ評価の開発，広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書，査読（無），8：151-165

〔学会発表〕（計 7 件）

1）久保研二・岩田昌太郎, 教員養成課程の体育科目における到達目標へのリフレクションに関する研究－ポートフォリオの活用を通して－. 日本体育学会第 62 回大会 9.27.2011, 鹿屋体育大学

2）Iwata Shotaro and Kakazu Kengo，Current Trends in Research Literature of Physical Education Pedagogy in Japan．Redesigning Pedagogy: Transforming Teaching, Inspiring Learning in the 2011 conference 5.30. 2011. Singapore

3）岩田昌太郎・嘉数健悟，初任保健体育科教師における悩み事の変容に関する事例研究．日本教科教育学会，10.2.2010, 弘前大学.（ポスター）

4）岩田昌太郎・嘉数健悟，教員養成における体育科目と教育実習の接続を目指したティーチング・ポートフォリオの活用の試みーリフレクションを中心としてー．日本

スポーツ教育学会，11.7.2009, 長崎大学.
5）岩田昌太郎・嘉数健悟，教員養成段階の保健の模擬授業における省察の内容と構造について. 日本教科教育学会, 10.11.2009, 金沢大学.（ポスター）
6）嘉数健悟・岩田昌太郎，教育実習における保健体育科教師の価値観に関する検討－教師の信念への示唆－. 日本体育学会第60回記念大会，8.28.2009，広島大学.
7）加登本仁・岩田昌太郎・嘉数健悟ほか 5名，体育授業の悩み事に関する調査－教職経験に伴う差異について－. 日本体育学会第60回記念大会，8.28.2009，広島大学.

〔図書〕（計２件）
1）梅野圭史・海野勇三・木原成一郎・日野克博・米村耕平編著，明和出版，教師として育つ―体育授業の実践的指導力を育むには, 2010年12月, p.127（pp.14-19, pp.71-77, pp.90-95を分担執筆）
2）日本体育科教育学会編著，創文企画，体育科教育学の現在，2011 年 12 月，p.319（pp.223-238を分担執筆）

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
岩田昌太郎（IWATA SHOTARO）
広島大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：50433090
(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：
(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：